

高等学校音楽科教材『歌の翼に』の日本語歌詞に関する研究

ドイツ語のサウンドに基づいた日本語歌詞作成の試み

Research on the Japanese lyrics of "Uta no Tsubasa ni" for high school music course materials

An attempt to create Japanese lyrics based on German sounds

飯泉 琴都(武蔵野音楽大学研修員)

Koto IIZUMI(Trainee of Musashino Academia Musicae)

(要旨)

本論は、高等学校の教科書教材に取り上げられている『歌の翼に』の日本語歌詞について研究し、4名の日本人作詞家の歌詞と、ハインリヒ・ハイネが作詞した原語の歌詞の母音に着目し、歌詞分析を行っている。研究の結果、ハイネの詩と4名の作詞家の詩は、共通する部分もあれば、異なった部分もあった。この結果に基づき、詩の内容に沿って、ハイネの詩のサウンドに近づけた歌詞の試作を試みた。

(キーワード)

歌詞、高等学校音楽科教科書、日本語訳詞、ドイツ歌曲

1. 研究の経緯

高等学校の音楽の教科書に取り上げられている外国の歌曲は、時代や版によって同一曲に異なる日本語歌詞がつけられている事が多く、これらは実際に教材として取り扱った場合、生徒たちはその偶然出会った日本語歌詞を歌う事になる。これは、歌う事から生まれる音の響きととらえた場合、一教材として検討する必要があるのではないかと考えた。

なぜなら歌曲というのはそもそも、原語で歌うのが一番メロディーとマッチングしている、つまり、作詞家が作った歌詞と作曲家が作ったメロディーを歌う事が最も望ましいと考えられる。これは、歌詞に合うメロディーがつけられている、または、メロディーに合う歌詞がつけられている事だからである。特にドイツ歌曲などの芸術歌曲は、その歌詞と音楽の芸術性を追求しなければならないものだと考えられる。

そこで、本研究では、実際に教育現場で使われている教科書教材の日本語歌詞について

研究する。

今回の楽曲は、高等学校の教科書教材として取り上げられている、メンデルスゾーン作曲の《歌の翼に》を取り上げて研究する。

2. 楽曲について

《歌の翼に》は、ハインリヒ・ハイネが1827年に作詞した『歌の本』に書かれている詩に、フェリックス・メンデルスゾーンが1836年に作曲したドイツ歌曲である。「6つの歌曲」作品34の第2曲目で、のちにメンデルスゾーンの妻になるセシル・シャルロットへの思いが歌われている。

3. ドイツ歌曲とは

『ドイツ歌曲』とは、ドイツ語で「歌」を意味する『リート』とも言われている。ドイツ語の歌詞に曲がつけられており、ピアノと歌がお互いにメロディーを奏でるように協演し、繊細な表現であっても、詩と音楽が融合して一つのサウンドを作り上げている。主にゲーテ、シラー、メーリケ、アイヒェンドル

フなどの、ロマン派文学の詩人の詩を用いられている事が多い。

益田道昭（2010）によると、ドイツのバリトン歌手のフィッシャーディスカウが『音の運び手としての、開いた（短い）、そして閉じた（長い）母音なしには、歌曲の音は絶対に生み出されない。すなわち歌の本体を成すのは母音だという事である。それ故、母音は最初の聴覚と音形成のための材料となる。』といている。

この《歌の翼に》は、4名の日本人作曲家がこの曲に歌詞を付けている事が分かっている。4名ともハイネの詩の内容に沿った歌詞になっている。

そこで、本研究における歌詞分析の方法は、ハイネと4人の日本人作詞家の歌詞の母音に着目していく。

尚、本研究で取り上げる歌詞はいずれも1節のみとする。

4. 日本人作詞家について

《歌の翼に》に日本語歌詞を付けた作詞家は、津川主一、門馬直衛、久野静夫、林望の4名である。この4名について簡単に述べる。

(1) 津川主一

（1896年11月16日～1971年5月3日）

愛知県出身で日本基督教団の牧師。教会音楽家。関西学院を卒業し、東京麻布美普教会の牧師に就任する。《牧人ひつじを》《夢路より》などの邦訳を多く残している。

(2) 門馬直衛

（1897年3月6日～1961年10月6日）

福島県出身で日本の音楽評論家。東京帝国大学を卒業し、1929年に武蔵野音楽大学教授として就任。《サンタ・ルチア》などの邦訳も多い。

(3) 久野静夫（本名は市川都志春）

（1912年1月18日～1998年4月29日）

静岡県浜松市出身で日本の作曲家。音楽教育者。教育芸術社の創業者。

東京音楽学校をヴァイオリン科で卒業し、信時潔に半年間作曲を学ぶ。

《ジングルベル》《子犬のマーチ》など、多くの邦訳を残している。

(4) 林望（1949年2月20日～）

日本の作家。小説家。慶応義塾大学文学部国文学科卒業。

《ます》の邦訳や、合唱曲を多く作詞している。

本研究では、この4名の歌詞と、ハイネの歌詞について、分析を行う。

5. 歌詞

歌詞分析にあたり分析する歌詞を提示する。

(1) ハインリヒ・ハイネの詩

【原語】

Auf Flügeln des Gesanges,
Herzliebchen, trag ich dich fort,
Fort nach den Fluren des Ganges,
Dort weiß ich den schönsten Ort;

Dort liegt ein rotblühender Garten
Im stillen Mondenschein,
Die Lotosblumen erwarten
Ihr trautes Schwesterlein.

【対訳】

歌の翼に乗せて
心から愛する恋人よ、僕は君を連れて飛び立とう
はるかに遠いガンジスの岸辺へと
そこに最も美しい場所を知っているんだ

そこには真っ赤な花が咲く庭があつて
静かな月の光に照らされている
たくさんの蓮の花たちが待っているよ
彼らの愛しい妹がやってくるのを

(2) 津川主一の詩

歌の翼をかりてゆかな
幸に溢るる 夢の国へ
日のさすそのに 花は香り
見渡す池に 蜂巢におう

(3) 門馬直衛の詩

歌の翼に君をおくらん
みなみはるかなる うるわしくにに
花は香るそのに 月影さえ
はすさきいでて 君を待つよ

(4) 久野静夫の詩

歌の翼にあこがれのせて
おもいしのぶガンジス 遙かの彼方
うるわし花園に 月は照り映え
夜の女神は 君をいざなう

(5) 林望の詩

歌よはばたけ 君をのせて
きよきながれに あおきみそのへ
赤い花咲く時 月は静かに
そのはすの花も 君を待つよ

6. 歌詞分析

この曲は5つのフレーズで構成されている。
1 フレーズごとに歌詞の母音に注目していく。

(1) フレーズ 1

この曲はアウフタクトで始まる。最初の3拍の歌詞に注目すると、ハイネの詩は、“Auf Flügeln” となっているように母音が『a→u→e』となる。それに対して4人の日本人作詞家は、最初の3拍“うたの”の母音が『u→a→o』となっている。2小節目の付点4分音符には、ハイネの詩も4人の詩も全員『a』の母

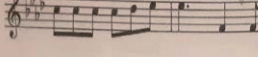
音で統一されている。3小節目の4分音符は、久野の詩以外は『i』の音があるが、久野の詩のみ『あこがれ』の『a と o』があるのと同時に8分音符が一つ増えてリズムも少し変わっている。

表 1 フレーズ 1 の母音分析表

ハイネ	歌詞	Auf Flügeln des Gesanges, Herzliebchen trag ich dich fort
	母音	au u-eun e-a ea--nou, eu i-en a-i o--
津川	歌詞	うたーのつーばさーをかりてゆーかなー
	母音	u a-o u-a a--o a i-e u-a a--
門馬	歌詞	うたーのつーばさーにきみーをおくらん
	母音	u a-o u-a a--i i i-o o u a n
久野	歌詞	うたーのつーばさーにあーがねのーせてー
	母音	u a-o u-a a--i a o a e o-e e--
林	歌詞	うたーよほーばたーけきみーをのーせてー
	母音	u a-o a-a a--e i i-o o-e e--

(2) フレーズ 2

表 2 フレーズ 2 の母音分析表

2. 

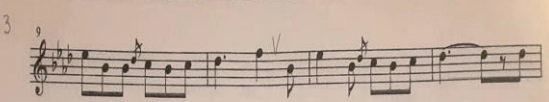
ハイネ	歌詞	fort nach den Fluren des Ganges, dort weiß ich den schönsten Ort
	母音	ou a euea-a-neu, o a ieu-e-e-n-o--
津川	歌詞	さうにあふるーるやめーのくーにーへー
	母音	ai-ia-uu--uu-e-ou-i-e--
門馬	歌詞	みみみはるかたーるうるわしくーにーにー
	母音	iaiauaa--uuuaui-u-i-i--
久野	歌詞	おもいしのがガーンズはるかのかーたーにー
	母音	ooiioa--niuaua-a-a-a--
林	歌詞	きよきながれがガーンズあおきそーのへー
	母音	ioiaaea--niuaoio-o-e--

2 フレーズ目に注目すると、5 小節目の始めの 3 拍はそれぞれ、ハイネ “fort nach den”

『o→a→e』、津川は“さちに”『a, i, i』門馬“みなみ”『i, a, i』久野“おもい”『o, o, i』林“きよき”『i, o, i』のように、3拍目がハイネは『e』になっているのに対し、日本人4名は『i』の母音が来ている。隣の6小節目の付点4分音符と4分音符は、ハイネの詩では“Ganges”とあるように、久野と林もそれに合わせて“ガンジス”とあり、意味と音の双方が共通している。同じ部分において、津川は『u, u』、門馬は『a, u』とあり、5つとも4分音符には『u』の母音が来ている事がわかる。

(3) フレーズ3

表3 フレーズ3の母音分析表



ハイネ	歌詞	Dort liegt ein rotbluhen der Garten im stillen Mondenschein
	母音	o i a o u en a - - u en i i - en o - n en a - - in
津川	歌詞	ひのーさすーそーのーにははーはかーおりー
	母音	i o - a u - o o - - i a a - a a - o i - -
門馬	歌詞	はははかおるそーのーにつきーかげーさえー
	母音	a a a a o u o o - - i u i - a e - a e - -
久野	歌詞	うるわしはなぞのーにつきーはてりはえー
	母音	u u a i a a o o - - i u i - a e i a e - -
林	歌詞	あけいはなさくとーきつきーはしづかにー
	母音	a a i a a a u o - - i u i - a i u a i - -

3フレーズ目に注目すると、10小節目の付点4分音符と4分音符には、ハイネの詩には“Garten”という歌詞が来る。従って母音は『a, e』が用いられる。一方で日本人4名の母音は全て『o→i』になっている。11小節目のアフタクトから12小節目の3拍目までは、ハイネの詩は“im stillen Mondenschein”となり、5拍目には長母音が用いられている。このように、津川の“はなはかおり”と、門

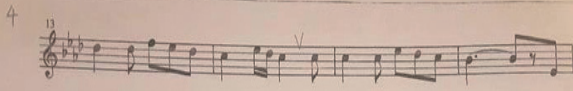
馬の“つきかげさえ”という歌詞も5拍目には長母音となっている。一方で、久野と林の歌詞はそれぞれ“つきはてりはえ”と“つきはしづかに”のように、5拍目にも音を用いている。また、11小節目の始めの2拍（4分音符）には、津川のみ“はなは”の『a』が用いられているのに対し、他3名の日本語歌詞“つき”や、ハイネの“im stillen”のように『i』の母音が用いられている。

(4) フレーズ4 フレーズ5

4フレーズ目と5フレーズ目は同じ構造になっているため、同時に説明する。

13～14小節目のハイネと林の詩に注目すると、それぞれ“Die Lotosblumen erwarten”や、“そのはすのはなも”のように、13小節目の5拍目に音が用いられている。一方で、他3名による日本語歌詞は、津川の“みわたすいけに”、門馬の“はすさきいでて”、久野の“よるのめがみは”、となっているように、5拍目は母音で伸ばしている。また、14小節目に用いられている16分音符では、全ての歌詞が長母音になっている。次の15小節目のアフタクトと始めの3拍は、ハイネの詩には“ihr trautes”のように母音が『i, a, e』が用いられている。4つの日本語歌詞においては、津川のみ“はちす”の『a, i, u』が用いられるが、他3名の歌詞は“きみを”の『i, i, o』が用いられる。同小節の4～6拍目は、久野のみ“いざなう”という歌詞に沿って、5拍目に音が用いられているが、ハイネと他3名の歌詞は長母音である。フレーズ終わりの付点4分音符では、ハイネの詩は“Schwesterlein”の『a』から最後に文末の『n』がかけられているが、4つの日本語歌詞は『o』や『u』の母音が用いられている。

表4 フレーズ4の母音分析表



ハイネ	歌詞	die Lotosblumen erwarten ihr trautes Schwesterlein
	母音	i o-ou u enea a-u en i a-ueu e-aa--in
津川	歌詞	みわ-たす-いけ-に(はろ-すに-おう--
	母音	i a-au-ie-i ai-ui-ou--
門馬	歌詞	はす-さき-いで-て きみ-もま-つよ--
	母音	au-ai-je-e ii-oo-uo--
久野	歌詞	よる-のめ-がみ-はきみ-をいざなう--
	母音	ou-oe-ai-aii-oi aa u--
林	歌詞	その-はすのほは-も きみ-をま-つよ--
	母音	oo-au o a a--o ii-oo-uo--

表5 フレーズ5の母音分析表



ハイネ	歌詞	die Lotosblumen erwarten ihr trautes Schwesterlein
	母音	i o-ou u enea a-----en i a-ueu e-aa--in
津川	歌詞	みわ-たす-いけ-----に(はろ-すに-おう--
	母音	i a-au-ie-----i ai-ui-ou--
門馬	歌詞	はす-さき-いで-----て きみ-もま-つよ--
	母音	au-ai-je-----e ii-oo-uo--
久野	歌詞	よる-のめ-がみ-----はきみ-をいざなう--
	母音	ou-oe-ai-----aii-oi aa u--
林	歌詞	その-はすのほは-----も きみ-をま-つよ--
	母音	oo-au o a a-----o ii-oo-uo--

7. 本分析からの考察

本分析では、5つの歌詞を母音による視点で分析してみたが、共通する部分もあれば、異なった部分もあった。これは言語の違いによる母音の仕組みが異なるため、この結果はある程度予想していた。しかし、ドイツ歌曲のような芸術歌曲を表現する場合、その織りなす言葉の響きの再現が重要なのではないかと考える。そのように考えると、もし日本語

の歌詞で歌う場合、いかにしてドイツ語歌詞で歌ったときのサウンドに近づけるかという事が高等学校の芸術科音楽を学ぶ上では重要なのではないかと考える。

また、取り上げた日本人4名の歌詞の中でも、津川と門馬の歌詞は、古い日本語の歌詞が用いられている事が分かった。21世紀に生きる高校生がうたうものと考え、その歌詞の内容は分かりにくいのではないかと思います。その点、久野と林の歌詞は、分かりやすい日本語歌詞で書かれていた。

つまり、日本語の歌詞は、時代とともに変化させていく必要があるのではないかと考えられる。

そこで、筆者もハイネの詩の内容に沿った上で、分かりやすい言葉を用いて歌詞を提案する。

8. 本分析による新しい歌詞の試作の試み

本研究で取り上げた日本人4名の歌詞は、ドイツ語の歌詞のサウンドとは似ているとは言い難いものと分かった。

筆者はこれまで外国曲を日本語に訳された歌詞を歌ってきた経験から、サウンドの次に優先すべき事項は、言葉の文脈的対応や音の流麗さなどの歌詞の流れだと考える。原曲の歌詞の流れと、林望の歌詞の流れは、類似するように思われる。

外国語の歌詞を日本語にした場合、高校生にとって歌っている意味の分かりやすさも大切なのではないかと先に述べた。

そこで、本研究において、5つの詩の内容に沿い、ハイネの詩のサウンドに近づけた歌詞を、自身で作成することを試みた。

作成した詩は以下のパターン1からパターン3の3詩となる。二重下線は原語の母音と合わせた部分であり、波線の下線は原語の子音と合わせた部分である。

【パターン1】

翼にのせて 連れ飛び立とう
 はるか遠いガンジス 素敵なところ
そこには赤い花が 月に照らされて
 はすの花咲き みんな待つてる

【母音】

UA-AIOE-E UE-OIAO-
 AUAAOIANIU UEIAO-O-
 OOIAAAIAA-A UIIEAAEE-
 AUOA-AA-I INAAEU

【パターン2】

美しい世界へ 一緒に行こう
おもしろい溢れるガンジス 翼にのせて
 花が咲く庭に 月に照らし出す
 はすの花さえ あなたを待つてる

【母音】

UU-UIEA-IE II-OIUO-
 OOIAUEUANIU UAAIO-E-E-
 AAAAUIA-I UIAEIAIU-
 AUOA-AA-E AAAOAEU

【パターン3】

溢れる歌と 一緒に行こうよ
 遠い国へガンジス 美しい場所
 赤い花咲く庭と 静かな月
 はすの花だって 君を待つてる

【母音】

AU-EUUA-O OOIO-O-
 OOIUIEANIU UUUII-AO-
 AAIAAAUIA-O IUAAUI-
 AUOA-AA-E HIOAAEU

9. 試作にあたって

冒頭の歌詞は、【原語】の“Auf Flügeln des Gesanges”という母音に沿った言葉を用いている。【パターン1】は「翼に乗せて」とあるように、他の日本語歌詞と同じように『u→a』となっているが、【パターン2】【パターン3】はそれぞれ「美しい世界へ」「溢れる歌と」のように、始めの2文字の母音は『a→u』を用いている。

ハイネの詩の“Herzliebchen trag ich dich fort”にあたる部分は、【パターン1】は「連れ飛び立とう」【パターン2】は「一緒に行こう」【パターン3】は「ともに行こうよ」のように、3つともフレーズの最後の母音は、原語に合わせて『o』を用いている。

また、【原語】の“Ganges”の部分は、いずれも「ガンジス」という言葉を用いている。すぐ後のフレーズ“Dort weiß ich den schönsten Ort”の部分の語尾は、原語では『o』になっている。【パターン2】は「翼に乗せて」のように、フレーズの最後の語尾が『e』であるが、【パターン1】【パターン3】は「素敵なおとこ」「美しい場所」のように、ハイネの詩と同じように『o』の母音を用いている。

次のフレーズの、【原語】“Dort liegt ein rotblühen der Garten”にあたる歌詞においては、【パターン1】は「そこには赤い花が」のように、始めの3音節が“Dort liegt ein”と同じように、『o→i→a』を用いている。また、“Garten”の部分には、いずれの歌詞も『a』の母音を用いている。

さらに次のフレーズの【原語】“Die Lotosblumen erwarten”にあたる部分は、【パターン1】「はすの花咲き」、【パターン2】「はすの花さえ」、【パターン3】「はすの花だって」のように“erwarten”の部分にはいずれも『a』を用いている。また、

そのフレーズの終わりの母音は、ハイネは“Schwesterlein”のように『a』の後に子音の『n』を用いているが、この詩に関しては、他の日本語歌詞と同じように「待ってる」の『u』の母音で締めくくっている。

10. まとめ

本研究によって、これまでの教科書掲載の日本語歌詞は、ドイツ語と日本語、それぞれ異なる母音の仕組みであることもあり、その言葉のサウンドの類似性は乏しいということが分かった。

そのため、日本語の歌詞となっても、ドイツ語のサウンドの美しさを損なわずに響かせることの重要性を挙げ、課題とし、その実現を試みた。

この試みはまだ十分といえるものではないが、サウンドという視点で考えた時に、一定の成果を得たのではないかと考える。

今後は、本研究において試作した歌詞を実際に演奏し、歌詞の流れやサウンドを検証し、研究を進めたいと考える。

参考文献

山下薫子/伊藤康英/小野瀬照夫/岩本達明/久行範彦/古澤成樹(2023年) 音楽之友社の新しい教科書「On 2」音楽之友社

益田道昭『よみがえるドイツリート of 響き』サベール社、2010年。